

## 「疾病管理普及事業」

NPO法人アジア・エイジング・ビジネスセンター(実施団体：合同会社カルナヘルスサポート) (実施エリア：福岡県他)

米国で発展した疾病管理モデルを基本に我が国においても健康医療情報を活用し、健康保険組合が加入者の健康状態に即した効果的・効率的な保健事業を行うことを支援する「データヘルス計画」が進められている。本事業は生活習慣病(糖尿病、糖尿病予備軍及びメタボリックシンドローム)を対象とし、発病予防(一次予防)から早期発見と治療(二次予防)、合併症予防と重篤化防止(三次予防)まで切れ目ないサポートを、医師と患者の中間的役割を担うことで実現している。また、事業を広域に展開するために、核となる医師・患者とのコミュニケーション、患者情報の収集・管理にICTの力を積極的に活用している。

※データヘルス計画：「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組みを求める」ことを掲げています。

### 事業化の背景

- 糖尿病等の生活習慣病にも学会等が定める各種標準的な治療のガイドラインがあるが、患者側に広く認識されていない。また、多忙な開業医にとっても数年単位で変わるガイドラインの詳細までをキャッチアップすることは困難であり且つ拘束力もないため、同じ地域内でも病院や医師によって治療方針の違いが起きている。
- また、地域における病診連携ネットワーク化は各地で進行しているが、医師のカルテの記載内容もしくは開示レベルが不統一であり、病状や診断結果のみならず診断に至るプロセス(疑いあるが他病ではないと判断した根拠等)まで漏れなく伝達しきれない、多忙な医師にそこまで強く要求できない等の問題が指摘されている。
- この問題に対して九州大学病院及び福岡大病院の医師及び看護師が、真の医療連携実現に向けての第一歩として、診断・治療の見える化＝ガイドラインに基づく治療の標準化(クリティカルパス)の普及事業を担う合同会社を設立した。  
 ▶ クリティカルパスが普及することによって医療連携におけるカルテ記録の標準化が図れ、遠隔診断等の混合体制が可能となる

※クリティカルパスとは、一定の疾患や検査毎に、その治療の段階及び最終的に患者が目指す最適な状態に向け、最適と考えられる医療の介入内容をスケジュール表にしたもの  
 ・病院・医療従事者のメリット：計画的な診療により質の保証・平準化とチーム医療も推進される、また医療効率が向上により医療費削減等にもつながる  
 ・患者・家族のメリット：病状・その経過や治療内容が明確化されると共に、どの病院でも安心して治療が受けられる

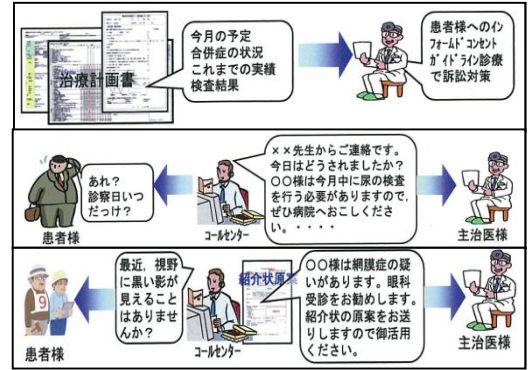
### 事業内容

医療機関向け(糖尿病合併症発病予防)及び健康保険組合等の医療保険者向け(生活習慣病改善)にICTを活用した下記サービスを展開している。

#### 1. 医療機関向けサービス(糖尿病合併症発病予防)

- ① 治療計画立案・管理支援  
合併症の進行状況に対応したクリティカルパス(約2,900パターン)をDB化し、診療現場での治療計画の立案・実施管理等を支援する。
- ② 通院開始・中断防止の支援  
メディカルコールセンターから患者へ診療日の調整・確認、主治医への状況連絡等を行い、治療の中断防止や通院維持を支援する。また定期検査の結果は次回診察日となるが、血糖値変化の代表的指標となるヘモグロビンA1cの結果については判明次第患者に告知し、次回の確実な来院への動機づけを支援する。
- ③ 合併症早期発見支援  
メディカルコールセンターからクリティカルパスに含まれる合併症発見質問アルゴリズムを用いて定期的な聞き取りを行い、専門医の診察を必要とするかの判定を行う。

医療機関向けサービスイメージ



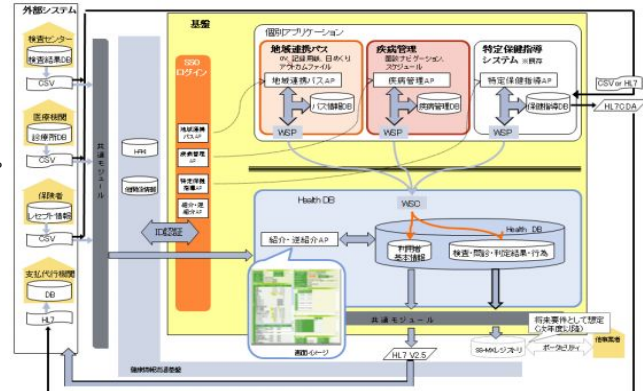
#### 2. 医療保険者(健保組合加入者)向けサービス(生活習慣病改善)

- ① 検診データと患者管理等の電子化(共通フォーマット化)
- ② 特定健康診査支援(対象者の抽出と通知・面接調整)
  - ・「健診データ共有システム」により加入者の状態(要治療度)を自動判定。
  - ・既往レセプトとの突合から要治療対象に連絡を取り、看護師との面談(タブレット端末等での遠隔対応も可能)による事前問診を勧める。
  - ・治療の意思がある対象者については「面談予約システム」で加盟病院の紹介・初診予約までサポートする。
- ③ 特定健康指導支援(動機づけ支援レベル以上)
  - ・アフターフォローの支援  
初回通院後はコールセンター等で、顧客と目標の達成状況(通院状況、検査結果)病知識、医師の指示、服薬の確認や、セカンドオピニオンや転院要望への対応等を継続的にサポートする。

医療保険者向けサービスイメージ



システム全体像



### 導入費用

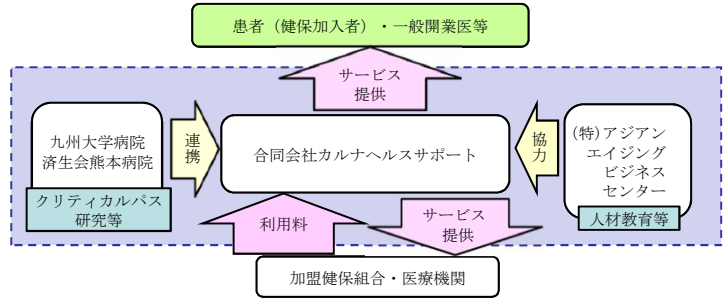
- 本システム導入の概算費用(実績ベース)

・導入費用：約6,600万円  
 内訳：システム開発・構築費3,800万円、機器等2,800万円

※本システム構築時からICTシステムのクラウド化・低単価が進んでいるため、新規に導入する場合の費用等については次頁の問合せ先にご相談下さい。

事業実施体制・運営状況

1. 合同会社カルナヘルサポートが九州大学病院等と連携して疾病管理に関するノウハウ及び事業運営費を負担する。
2. 専門性の高い要員の確保については株式会社アジアンエイジングビジネスセンターと協力して、家庭に埋もれているコメディカル（保健師・看護師・管理栄養士など）を掘り起こし、「医療職ICT人材」を育成している。
3. 運営費については医療機関・健保組合からのシステム及びコールセンター利用料等で自立運営している。



ICT活用の3要素:「つなげる力」「見える化力」「横串を通す力」から見る、本事業の特徴・差別化要素

つなげる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コールセンターと患者情報等の集中オペレーションを可能とすることで、地域／在宅の医療人材を活用しながら（≒比較的低いコストで）広域・全国対応を可能としている。</li> <li>■ 事前問診段階ではタブレット端末等を用いた遠隔対応を可能とし、相談に対する患者（予備群）の心理的障壁を下げている、また治療の段階においても安価に患者とのコミュニケーションが図れ、治療の長期継続が必要な患者の支えとなっている。</li> <li>■ 医師・患者間を繋ぐ「要」となるメディカルコールセンターの要員は在宅のコメディカル有資格者（保健師・看護師・管理栄養師等）を活用、勤務時間や通勤の制約が少ないため、地域での新たな雇用創出につながられている。</li> </ul>
見える化力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 患者自身が治療の計画及び進捗が把握できる。また、場所を問わず均一な治療が受けられる。</li> <li>■ 現地の診療事例に基づいてクリティカルパスの洗練度を高めることによって、共有される診療情報が（医師に余分な負荷をかけることなく）充実し、医療の標準化そのものに対する医師の抵抗感及び医療機関間の情報共有に関わる業務負担を軽減できている。</li> </ul>
横串を通す力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他院紹介の際、紹介状とともにクリティカルパスに沿った治療計画書を患者に持たせることで、医師へのクリティカルパスの認識の向上が促進される。</li> <li>■ 特定健診・保健指導のデータ基盤として共同利用できるため、疾病管理事業を市・県が行う際も利用できる。</li> </ul>

事業の成果（アウトカム／アウトプット）

- 厚生労働省の推進する「データヘルス計画」を事業機会として、健康保険組合にアプローチするとともに、コールセンター等の仕組みでエンドユーザー及び医療機関に対するサービスを充実させてからは順調に業績を伸ばしている。
  - 現在、福岡県内約2,000の医療機関での利用が進んでおり、安定した利用者数を確保している



コールセンターでの対応風景と実際の患者との面接風景

本システム利用件数の推移	H25上期 (4-9月)	H25下期 (10-3月)	H26上期 (4-9月)
月間平均利用者件数	4,166件	5,001件	6,617件



面接風景

今後の展望

- 重症化予防システムとして健保組合をターゲットにアプローチを強化して事業の拡大をはかる。
- 更に、健康保険組合加入の対象者（患者及び患者予備軍）に対して、サービスの認知及び利用を促進する。
  - 費用は健保が負担するスキームのため、利用しやすい環境が整った
- 最終的には、医師へのクリティカルパス普及の後、医師の遠隔診断とコメディカルによる現地処置による混合体制の実現を目指す。

<実施団体の横顔>

日本の医療制度に適応した日本型の疾病管理事業の構築を目指しています。



合同会社カルナヘルサポート  
住所：〒812-0024 福岡県福岡市博多区1丁目16番多田ビル5階

<本件に関する問い合わせ先・導入検討・視察の相談先>

電話：092-263-4381  
e-mail: icarna[atmark]info.med.kyushu.ac.jp  
※スパム対策としてメールアドレスを一部変更して記載してあります。  
eメールを御送付の際は、「[atmark]」を「@」に変えてご利用ください。